

## ■認知症の介護をする人の人権も大切だけど、介護される人の人権も大切なんだ！

梅雨期のまっただ中、前日の豪雨がうそのように晴れた7月2日（日）に開催した市民講座「人権講演会」には、町内外からたくさんの方々に参加していただきました。

講師の信友直子さんの話は、両親の老老介護や遠距離介護など、実体験に基づいたもので、会場の皆さんにしっかり伝わったのではないかと思います。

信友さんの話から、「そうだ。認知症になっても、得るものもあるんだ」「隠さず、周りに頼っていいんだ」など、認知症に対するマイナスイメージが少しでも変わったと思えたとの感想も聞かれました。

その中から、いくつかご紹介します。

認知症＝マイナスイメージだと思っていたが、信友さん家族の場合は、母が認知症になったことがきっかけで、父が家事を始めたり、夫婦で話す機会が増えたりと、プラスなことがあって驚きました。(20代)

これから先、祖母や両親がなった時、今日聞いた話であったように、周りの人に隠さず、家族だけで抱えないようにしていこうと思います。信友さんのお父さん、カッコいいなと思い、僕もそんな男になりたいです。(20代)

病気や発達に対して、症状で納得し、その人のことを理解しているように思っていたが、今日の講演を聞いて「本人の思い」がちゃんとある事に気づかせてもらいました。(60代)

以前、テレビ番組で、信友さん夫婦のことを観ていたので、その話が聞けてよかったです。介護は、看る人が大変と思いがちだけど、本人の気持ちに思いやるご家族の優しさが伝わってきました。(40代)

人権に対する意識を高めることで、相手の立場、地域の立場（プロの視点も）、あらゆる視点がもて、今後の暮らしをより良くできると思いました。偶然、信友さんの映画を見ました。映画の中のかっこいいお父さんと、おちゃめなお母さん、悩みつつ笑いつつ、泣きつつカメラを回した信友さんに出逢えて感謝です。(50代)

他にも、「ぼけますから、よろしくお願いします。」の映画や書籍が観たいという声がたくさんありました。

**映画は人権センターでいつでも観られます！**

**書籍は町立図書館にあります！**

どうぞ、観にきてくださいね。

